



# 資料館だより

NO.55  
2016年  
2月号

過去と未来がひびきあう  
—ようこそ、エコミューズへ。  
[www.aozora.or.jp/shiryoku/](http://www.aozora.or.jp/shiryoku/)

あおぞら財団附属  
西淀川・公害と環境資料館  
**エコミューズ**

## ◆あおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)が体験の場に認定されました◆



環境省リンク

[https://edu.env.go.jp/system/state\\_opportunity.html](https://edu.env.go.jp/system/state_opportunity.html)

大阪市リンク

<http://www.city.osaka.lg.jp/kankyo/page/0000335483.html>

「環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(環境教育促進法)」(2011年6月に成立)では、協働取組の推進や、民間団体の参加を促進するための制度が導入されています。この制度を活用して、あおぞら財団附属西淀川・公害と環境資料館(エコミューズ)は『体験の機会の場』に登録することとなりました。全国で11番目の認定となります。この『体験の機会の場』の認定は、自然体験の認定が主ですが、公害資料館がこのような体験の場として認定をされたことに意義があると考えています。

この制度を活用して、大阪市および環境省との協働を進めていけるようにしたいと願っています。(林 美帆)



## ◆もしあなたの住むまちで公害が起きたら？◆ 公害に関する参加型教材づくりに取り組んでいます！2

あおぞら財団では2016年度、公害に関する参加型学習の教材(アクティビティ)づくりに取り組んでいます(地球環境基金助成事業)。

そのうちのひとつ「あなたならどうする?」という教材は、「もし203X年という未来に、あなたのまちで大気汚染による呼吸器疾患と思われるナゾの病気が広がったらどうしますか?」という状況設定のもと、参加者が様々な立場になりきってロールプレイで話し合いを試みるというものです。

参加者はそれぞれ「住民A」「区役所の環境担当者」「X工場経営者」「医者」などといった役割カードを読んで、自分がその立場ならどう考えるか?を想像して発言します。「娘が病気になったので原因と思われる工場の操業をすぐに止めてほしい」という住民と、「うちは環境基準を守っているし調査結果では因果関係が立証できなかったのだから操業を止める必要はない。操業を止めたりしたら工場がつぶれてしまう」と主張する工場経営者…。それぞれ切実な事情がある中進める話し合いは、簡単に結論が出ません。

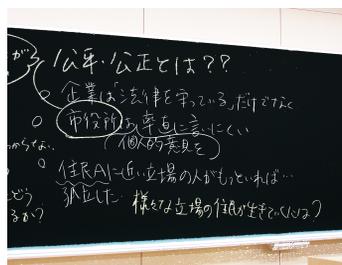


西淀川高校での話し合いの様子  
(2015/12/25)



千里高校での授業(2015/9/10.16)

この試作教材を様々な教育現場で使いながら改訂を重ねています。千里高校の国際文化科では、「社会課題について多角的な視点で考える」「問題解決のためには多様なステークホルダーとの対話が重要であることを学ぶ」というねらいで実施。龍谷大学では「環境と社会」の授業の1コマで活用。西淀川高校では、西淀川の大気汚染公害の授業の後、公害を過去の問題として学ぶのではなく、自分ならどうするかを考えてもらえるように活用しました。



龍谷大学での板書(2015/11/19)  
「公平、公正な判断とは?」

教材は来年度には、広くご活用いただけるようお披露目する予定です。お問合せはあおぞら財団まで!(栗本知子)